

令和7年度中学校・高等学校 体育担当者研修講座

令和8年2月実施

作成：岡山県教育庁 保健体育課

研修の目的

学習指導要領を踏まえた保健体育指導と学習評価の在り方等について研修し、中学校・高等学校における、学校や地域、生徒の実態に即した学校体育活動の充実を図る。



学習指導要領改訂状況

H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	H31 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	
中教審諮問 (11月)	論点整理 (8月)	中教審答申 (12月)	中学告示				「令和の日本型学校教育」の構築を目指して く全ての子どもたちの可能性を引き出す、 個別最適な学びと、協働的な学びの実現く (答申)				有識者 論点整理 (9月)	中教審諮問 (12月)	中教審 論点整理 (9月)	体育・保健体育、健康、安全ワーキング開催中 想定 中教審答申?

5月の体育担当者会の復習

5月の体育担当者会 概要

(論点整理 令和6年9月を踏まえた学習指導要領の再確認)

<ポイント>

- 育成すべき資質・能力を十分に意識しない実践が行われることにより、ICT等のツールを使用しても、「深い学び」に繋がっていない点に留意する必要がある。
- 主体的に学習に取り組む態度の観点については、「主体性」の意味が具体的に整理されていないこともあり、依然としてノート提出等の「勤勉さ」の評価に留まっている学校もある。
- 評価を行うタイミングを単元計画の中で事前に決めておくことが大切である。

	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)
	有識者 論点整理 (9月)	中教審 論点整理 (9月)	体育・保健体育、健康、安全ワーキング開催中 中教審 論点整理 (9月)	想定 中教審 答申?

5月の体育担当者会の復習

令和7年度 中学校・高等学校 体育担当者研修講座 資料

印刷ページ表示 ページ番号：0974385 2024年5月9日更新／保健体育課

✕ ポスト

👍 いいね！ 0

シェアする

LINEで送る

令和7年度 中学校・高等学校 体育担当者研修講座 資料

令和7年度 中学校・高等学校 体育担当者研修講座の資料（ワークブック）です。ワークブックはepisodeごとに分かれており、1つのepisodeは約20分～30分の実施時間を想定して構成されています。各学校での研修・ミニ研修等でご活用ください。

 [令和7年度 中学校・高等学校 体育担当者研修講座 ワークブック \[PDFファイル/2.92MB\]](#)



県教育庁 保健体育課HP
<https://www.pref.okayama.jp/page/974385.html>



今すべきこと



現行の学習指導要領を
着実に実施すること



次期改訂に向け、
入念に準備をすること

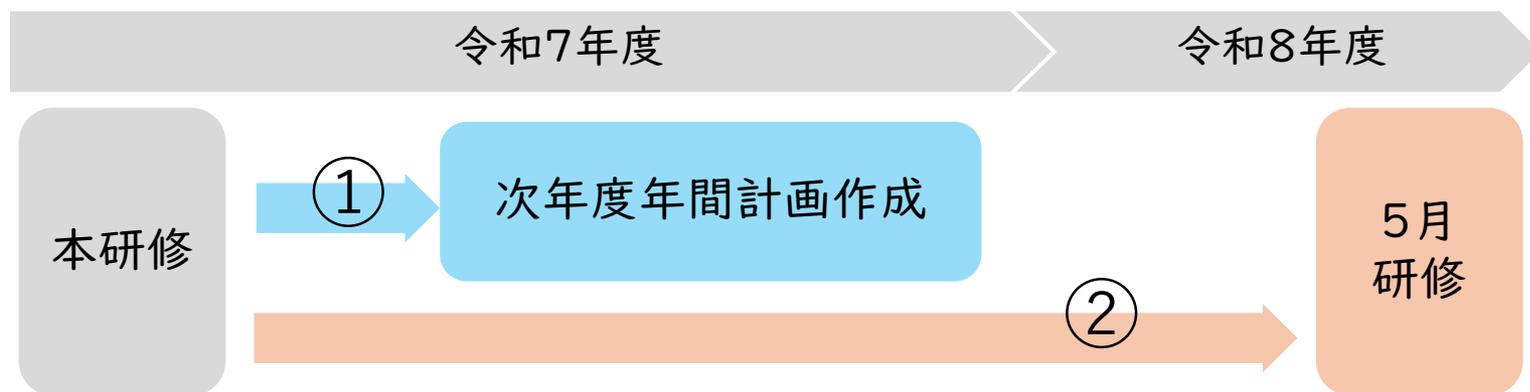
次期学習
指導要領

研修の概要

令和8年度 保健体育実施時の留意事項について

①年間計画作成時の留意事項（約30分）

②授業立案時の留意事項（約30分）



年間計画作成時の留意事項

年間計画作成時の留意事項の概要

- 内容の取扱い
- ニュースポーツの取扱い
- 男女共習
- 保健の実習
- 実施時期の工夫
- 事故防止

内容の取扱い

中学校

学習指導要領
解説保健体育編
P202

領域及び領域の内容	1年	2年	内容の取扱い	領域及び領域の内容	3年	内容の取扱い
【A 体づくり運動】 ア 体ほぐしの運動 イ 体の動きを高める運動	必修	必修	ア,イ 必修(各学年7単位時間以上)	【A 体づくり運動】 ア 体ほぐしの運動 イ 実生活に生かす運動の計画	必修	ア,イ 必修(7単位時間以上)
【B 器械運動】 ア マット運動 イ 鉄棒運動 ウ 平均台運動 エ 跳び箱運動		必修	2年間でアを含む②選択	【B 器械運動】 ア マット運動 イ 鉄棒運動 ウ 平均台運動 エ 跳び箱運動		ア～エから選択
【C 陸上競技】 ア 短距離走・リレー, 長距離走又はハードル走 イ 走り幅跳び又は走り高跳び		必修	2年間でア及びイのそれぞれの中から選択	【C 陸上競技】 ア 短距離走・リレー, 長距離走又はハードル走 イ 走り幅跳び又は走り高跳び	B, C, D, G, から①以上選択	ア及びイのそれぞれの中から選択
【D 水泳】 ア クロール イ 平泳ぎ ウ 背泳ぎ エ パタフライ		必修	2年間でア又はイを含む②選択	【D 水泳】 ア クロール イ 平泳ぎ ウ 背泳ぎ エ パタフライ オ 複数の泳法で泳ぐ又はリレー		ア～オから選択

内容の取扱い

中学校

学習指導要領
解説保健体育編
P202

領域及び領域の内容	1年	2年	内容の取扱い	領域及び領域の内容	3年	内容の取扱い
【E 球技】	必修	2年間でア～ウの全てを選択		【E 球技】	E, F, から ①以上選択	ア～ウから② 選択
ア ゴール型				ア ゴール型		
イ ネット型				イ ネット型		
ウ ベースボール型				ウ ベースボール型		
【F 武道】	必修	2年間でア～ウから選択		【F 武道】		ア～ウから選 択
ア 柔道				ア 柔道		
イ 剣道				イ 剣道		
ウ 相撲				ウ 相撲		
【G ダンス】	必修	2年間でア～ウから選択		【G ダンス】	B, C, D, G, から①以上選 択	ア～ウから選 択
ア 創作ダンス				ア 創作ダンス		
イ フォークダンス				イ フォークダンス		
ウ 現代的なリズムのダンス				ウ 現代的なリズム のダンス		
【H 体育理論】	必修	必修	(1) 第1学年 必修 (2) 第 2学年必修 (各学年3単 位時間以上)	【H 体育理論】	必修	(1) 第3学年 必修 (3単位 時間以上)
(1) 運動やスポーツの多様性				(1) 文化としての スポーツの意義		
(2) 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方						

内容の取扱い

高等学校

学習指導要領
解説 保健体育編
体育編 P190

領域及び領域の内容	内容の取扱い						
	入学年次	その次の年次	それ以降の年次	各領域の取扱い			
A 体づくり運動	必修	必修	必修	ア,イ 必修(各年次7~10単位時間程度)			
ア 体ほぐしの運動							
イ 実生活に生かす運動の計画							
B 器械運動	B, C, D, G から①以上選 択			ア~エから選択			
ア マット運動							
イ 鉄棒運動							
ウ 平均台運動							
エ 跳び箱運動							
C 陸上競技				ア 短距離走・リレー, 長距離走, ハードル走	イ 走り幅跳び, 走り高跳び, 三段跳び	ウ 砲丸投げ, やり投げ	ア~ウに示す運 動から選択
ア 短距離走・リレー, 長距離走, ハードル走							
イ 走り幅跳び, 走り高跳び, 三段跳び							
ウ 砲丸投げ, やり投げ							
D 水泳				B, C, D, E, F, Gから② 以上選択	B, C, D, E, F, Gから②以 上選択	ア~オから選択	
ア クロール							
イ 平泳ぎ							
ウ 背泳ぎ							
エ バタフライ							
オ 複数の泳法で長く泳ぐ又はリレー							

内容の取扱い

高等学校

学習指導要領
解説 保健体育編
体育編 P190

領域及び領域の内容	内容の取扱い					
	入学年次	その次の年次	それ以降の年次	各領域の取扱い		
E 球技	E, Fから① 以上選択	B, C, D, E, F, Gから② 以上選択	B, C, D, E, F, Gから②以 上選択	入学年次では, ア～ウから②選 択その次の年次 以降では, ア～ ウから選択		
ア ゴール型						
イ ネット型						
ウ ベースボール型						
F 武道				B, C, D, G から①以上選 択		ア～ウから選択
ア 柔道						
イ 剣道						
G ダンス	B, C, D, G から①以上選 択		ア～ウから選択			
ア 創作ダンス						
イ フォークダンス						
ウ 現代的なリズムのダンス	必修	必修	必修	(1) は入学年次, (2) はその次の 年次, (3) はそ れ以降の年次で 必修 (各年次6 単位時間以上)		
H 体育理論						
(1) スポーツの文化的特性や現代のスポーツ の発展						
(2) 運動やスポーツの効果的な学習の仕方						
(3) 豊かなスポーツライフの設計の仕方						

ニュースポーツの取扱い

中学校学習指導要領解説 P138

	種目	履修
ゴール型	バスケットボール, ハンドボール, サッカー	○第1学年及び第2学年のうち三つの型を全て履修 ○第3学年では, 自己に適した二つの型を選択
ネット型	バレーボール, 卓球, テニス, バドミントン	
ベースボール型	ソフトボール	

なお, 学校や地域の実態に応じて, タグラグビーなどの運動についても履修させることができることとしているが, **原則として, その他の運動は, 内容の取扱いに示された各運動種目に加えて履修させることとし, 学校や地域の特別の事情がある場合には, 替えて履修させることもできることとする。**

ニュースポーツの取扱い

高等学校 学習指導要領解説 P131

	種目	履修
ゴール型	バスケットボール, ハンドボール, サッカー, ラグビー	○入学年次においては, 三つの型の中から二つの型を選択
ネット型	バレーボール, 卓球, テニス, バドミントン	○その次の年次以降においては, 三つの型の中から一つの型を選択
ベースボール型	ソフトボール	

学校や地域の実態に応じて, その他の運動についても履修させることができることとしているが, **原則として, その他の型及び運動は, 内容の取扱いに示された各型及び運動種目に加えて履修させることとし,** 学校や地域の特別の事情がある場合には, 替えて履修させることもできることとする。

男女共習

中学校学習指導要領解説 P236

高等学校学習指導要領解説 P226

体力や技能の程度及び性別の違い等にかかわらず，仲間とともに学ぶ体験は，生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けた重要な学習の機会であることから，原則として男女共習で学習を行うことが求められる。

男女共習

中学校学習指導要領解説 P236

高等学校学習指導要領解説 P226

様々な仲間と学ぶ体験

||

豊かなスポーツライフ実現の学習機会

から、原則として男女共習で学習を行うことが求められる。

男女共習

共に学ぶ授業の意味・意義を伝える

例えば社会に出た後のスポーツ活動を考えてみると…

競技として極めたい

職場の仲間と親睦を深めるためにやりたい

健康づくり

地域の人や家族と楽しみたい



体力, 技能, 性別, 障害の有無…

様々な違いを超えて運動やスポーツの楽しみ方を共有するためには？

男女共習

●男子が物足りない、遠慮する

●女子が委縮する

• 性別による違いではなく、個による違いと捉える

●評価が難しい

• 学習指導要領の<例示>を単元の評価項目とするなら、性別差が、評価に直結する記載はされていない

●接触のある活動ができない

• グループ編成の配慮、接触のない活動で共習する

豊かなスポーツライフの実現

男女共習

なにが
できるかな？



どう工夫
できるかな？



この視点で考えることが学び

保健の実習

3 内容の取扱い 中学校学習指導要領解説 P227

(9) 内容の(3)のアの(イ)については、包帯法、止血法など傷害時の応急手当も取扱い、**実習を行うものとする**。また、効果的な指導を行うため、水泳など体育分野の内容との関連を図るものとする。

2 内容 中学校学習指導要領解説 P222

① 応急手当の実際 胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）使用などの心肺蘇生法、包帯法や止血法としての直接圧迫法などを取り上げ、**実習を通して応急手当ができるようにする**。

保健の実習

4 内容の取扱い 高等学校学習指導要領解説 P215

(6) 内容の(2)のアの(1)については、**実習を行うものとし**、呼吸器系及び循環器系の機能については、必要に応じ関連付けて扱う程度とする。また、効果的な指導を行うため、「体育」の「D水泳」などとの関連を図るよう配慮するものとする。

3 内容 高等学校学習指導要領解説 P206

① 日常的な応急手当

日常生活で起こる傷害や、熱中症などの疾病の際には、それに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手順があることを、実習を通して理解し、**応急手当ができるようにする。**

② 心肺蘇生法

心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）の使用などが必要であること、及び方法や手順について、実習を通して理解し、AEDなどを用いて**心肺蘇生法ができるようにする。**

実施時期の工夫

中学校学習指導要領解説 P242

高等学校学習指導要領解説 P228

教科内におけるカリキュラム・マネジメントを実現する観点から、体育と保健の関連する事項を取り上げる際、**指導する時期を適切に設定した年間指導計画を工夫する。**

実施時期の工夫

体育領域	中学保健	高校保健
体づくり運動	欲求やストレスへの 対処と心の健康	精神疾患の 予防と回復
水泳	応急手当	応急手当
体育理論	健康な生活と 疾病の予防	生活習慣病な どの予防と回復
学びに向かう力、人間 性等の健康・安全	健康な生活と 疾病の予防	健康を支える 環境づくり

中学校学習指導要領解説 P242 高等学校学習指導要領解説 P228

保健の熱中症や感染症の学習を、季節を考慮して実施することも有効

実施時期の工夫

学校における
熱中症対策ガイドライン作成の手引き

令和 3 年 5 月
環境省・文部科学省

学校における熱中症対策ガイドライン作成の手引き
(令和 6 年 4 月 追補版)

令和 6 年 4 月
環境省・文部科学省

実施時期の工夫

熱中症事故の発生リスクが高い活動の実施時期・活動内容の調整を検討する

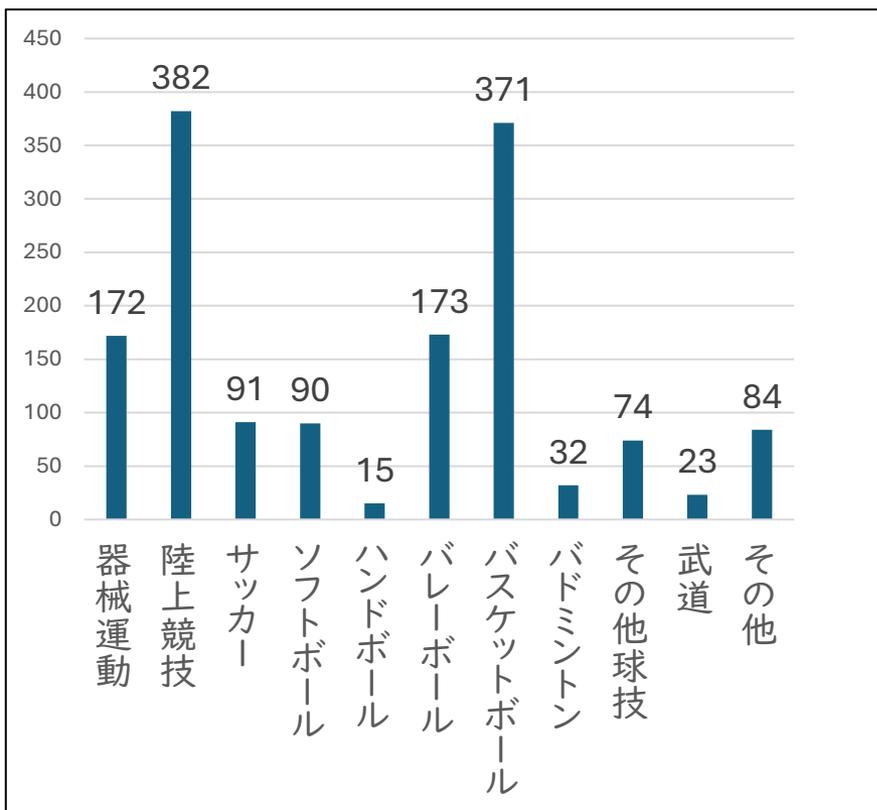
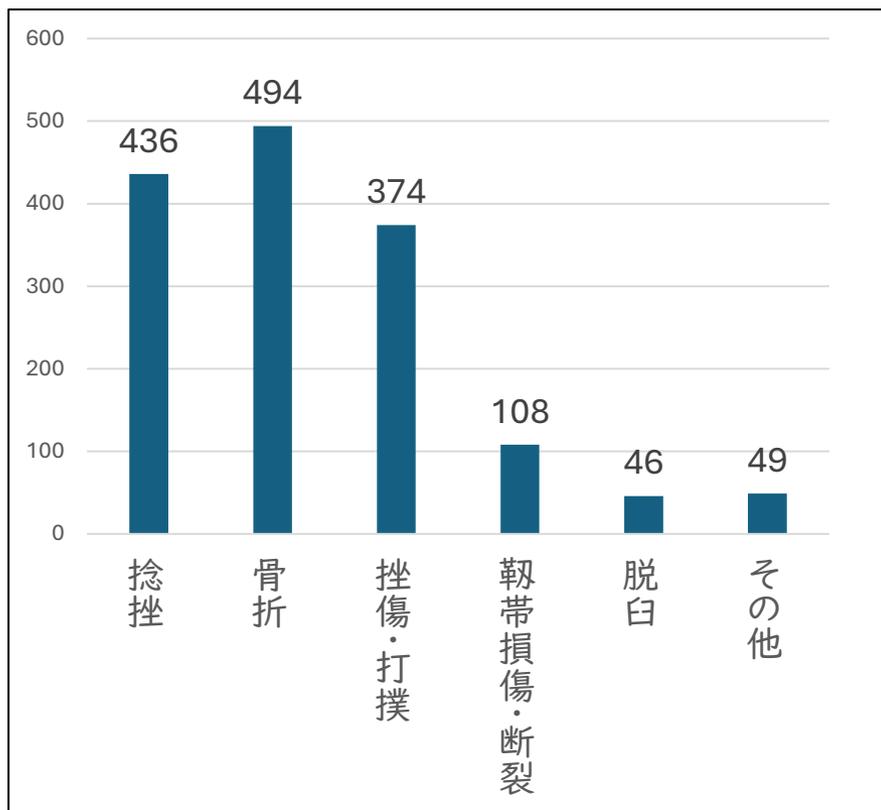


体育授業・部活動・体育的行事などについて、危険性が高い日や、予め予見できる場合は、

- ①実施時間帯や実施時期をずらす
 - ②実施時間を短くする
 - ③座学を含めた別の内容に振り替える
- などの対応も考えられる。

R7 事故発生状況

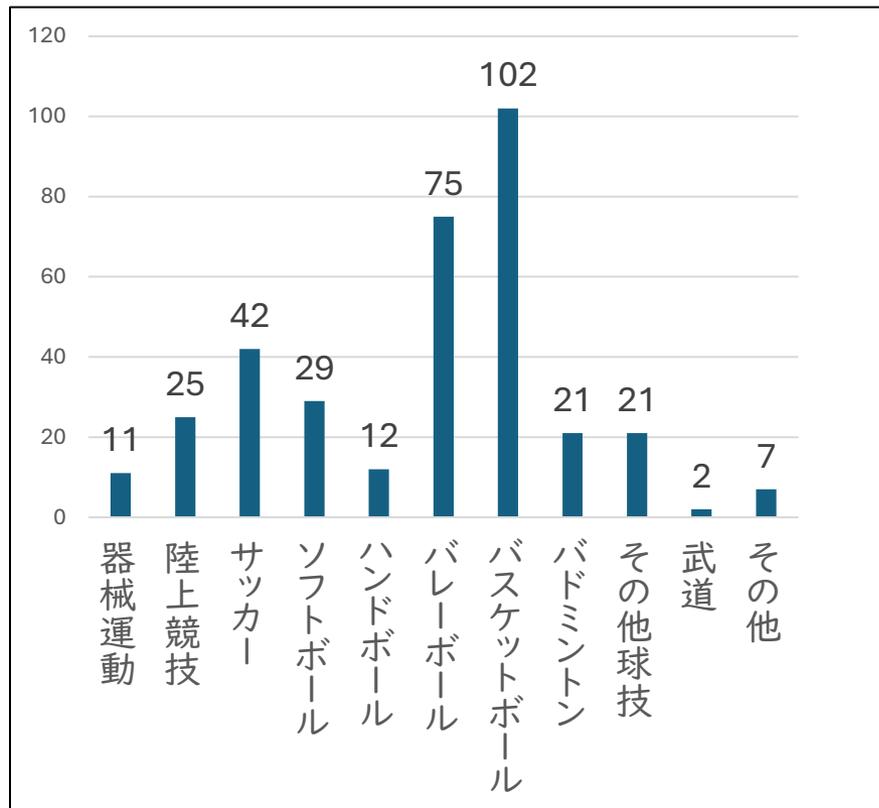
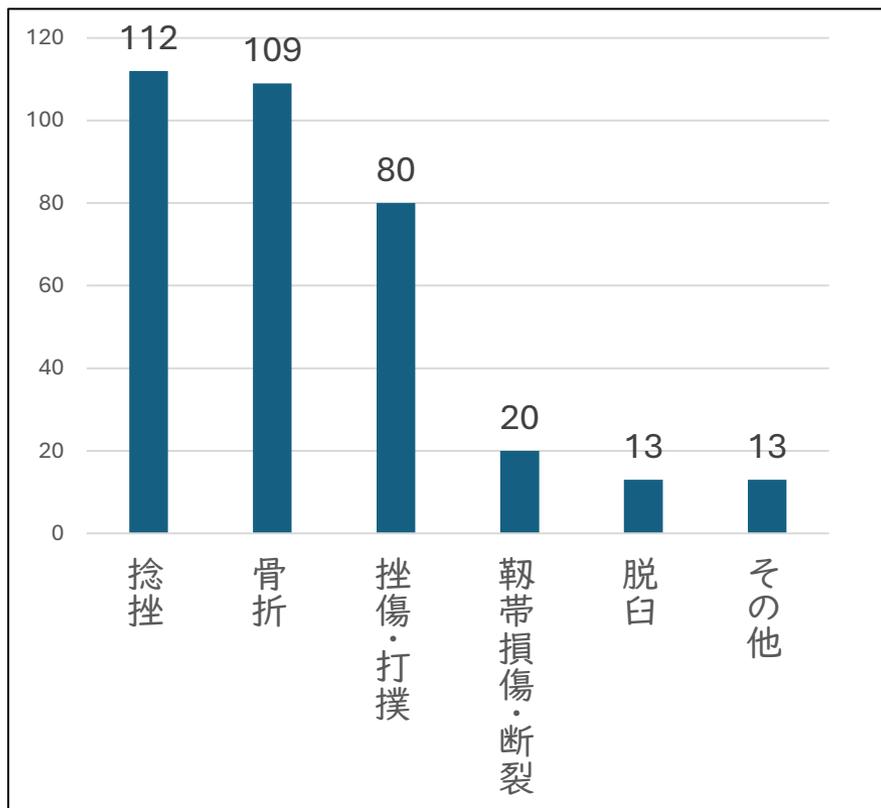
R7 体育授業中の事故（中学校）



日本スポーツ振興センター申請数（4月～10月）を基に作成

R7 事故発生状況

R7 体育授業中の事故（高等学校）



日本スポーツ振興センター申請数（4月～10月）を基に作成

年間計画作成時の留意事項の概要

- 内容の取扱い
- ニュースポーツの取扱い
- 男女共習
- 保健の実習
- 実施時期の工夫
- 事故防止

授業立案時の留意事項

学習指導要領の基本理念

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実



何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な知識や力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化

高校の新科目「公共」の新設

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す



どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善



新しい時代に求められる資質・能力の育成を図るための学習過程の質的改善

主対深と令和の日本型学校教育

個別最適な
学び



協働的な
学び

個の学びが
集団の学びを豊かに

一体的な
充実

集団の対話が
個の学びを
さらに深める

主体的・
対話的で
深い学び

主対深と令和の日本型学校教育

個別最適な 学び

指導の個別化

「学習内容の確実な定着を目指し、
重点的指導や指導方法・教材等の
柔軟な提供」

学習の個性化

「学習を深め、広げることを目指し、1人
1人の興味関心等に応じた学習課題・
発展学習の提供」

協働的な 学び

「異なる考えが組み合わせり、より良い学び
を生み出すことを目指し、子ども同士等、
多様な他者との協議」

主対深と令和の日本型学校教育

中学校40人学級における多様性

特異な才能のある子供

0.9人
(2.3%) ※1

学習面又は行動面で著しい困難を示す子供

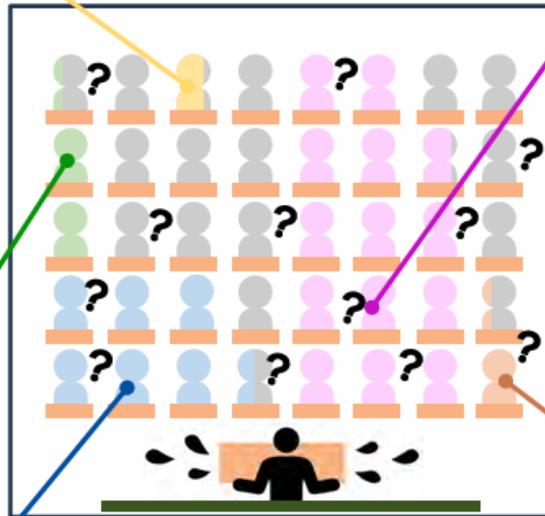
2.2人
(5.6%) ※2

不登校

2.7人
(6.7%) ※3

不登校傾向

4.1人
(10.2%) ※4



家にある本の冊数が少なく学力の低い傾向が見られる子供

15.7人
(39.2%) ※5

日本語を家であまり話さない子供

1.3人
(3.2%) ※6

【出典】内閣府 総合科学技術・イノベーション会議『Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ』をベースに更新

※1 日本には定義がないため、IQ130以上を仮定し、知能指数のベルカーブの正規分布を元に算出。子供の吹き出しは、文部科学省特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議アンケートを参考に編集。

※2 文部科学省「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果（令和4年）」

※3 文部科学省「令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要」

※4 日本財団「不登校傾向にある子どもの実態調査（2018年12月）」

※5 文部科学省・国立教育政策研究所「令和6年度全国学力・学習状況調査」

※6 文部科学省・国立教育政策研究所「令和3年度全国学力・学習状況調査」

授業立案の軸

これからの社会

少子高齢化



生成AI等
デジタル
技術の発展



マルチステージ
の人生



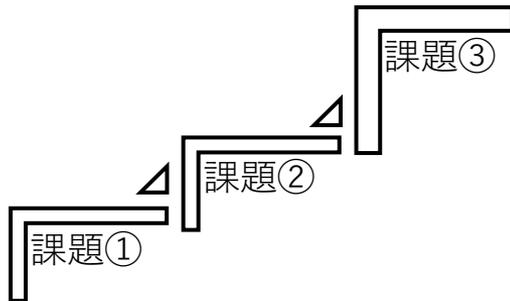
テクノロジー
によるチャンス



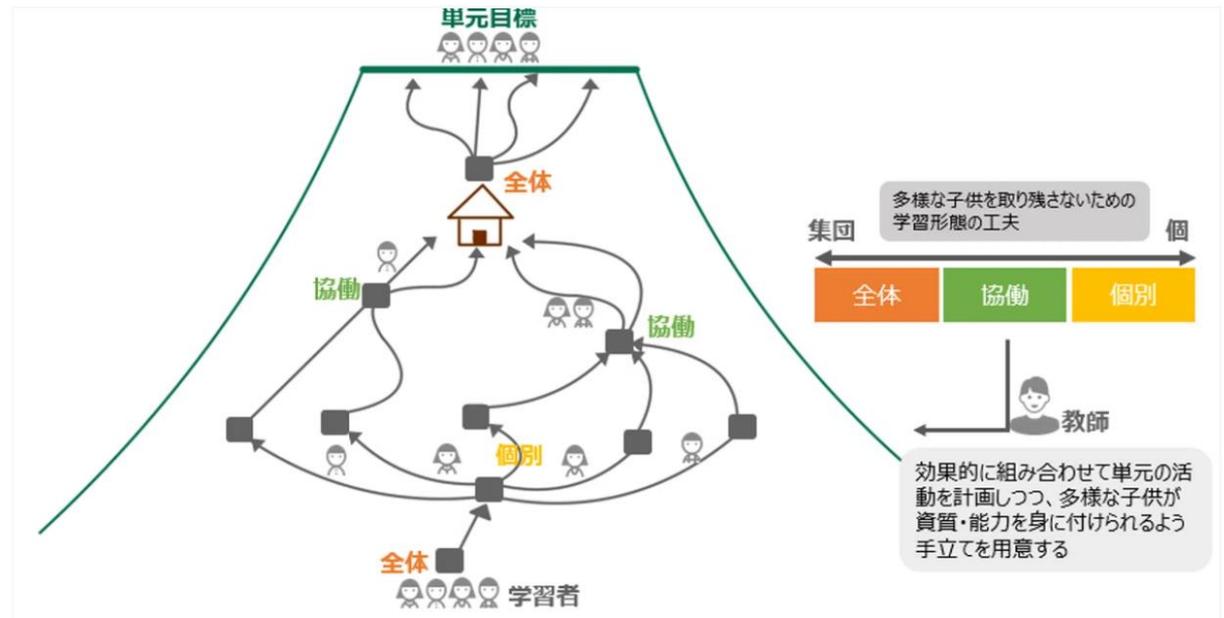
グローバル化



目指すは、「自立した学習者」



かつての授業のイメージ



現行 学習指導要領の授業のイメージ

授業立案の軸

これからの社会

少子高齢化



生成AI等
デジタル
技術の発展



マルチステージ
の人生



テクノロジー
によるチャンス

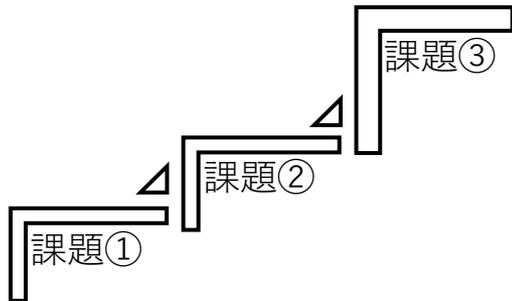


グローバル化

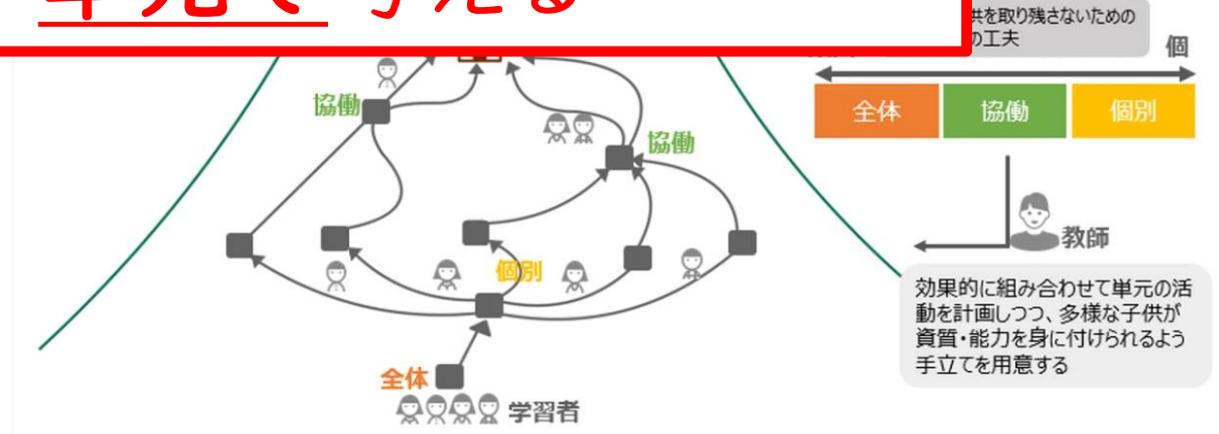


目指すは、「自立した学習者」

どの資質・能力の向上を図るか
単元で考える



かつての授業のイメージ



現行 学習指導要領の授業のイメージ

授業立案の軸

学習内容の全体像がわかる単元計画（学びの地図）

を見童・生徒と共有

サッカー 作戦使って決めろ ミラクルゴール

学習のながれ

時刻	1	2	3	4	5	6	7	8
10	和エンション ・学習のながれ ・チーム発表	ドリルゲーム ・2mおにごっこ ・サークルパス			・シュートゲーム ・ワンバウンドヒートゲーム ・ドリブル			サッカーの大会
20	役割決め ・ルールの確認	タスクゲーム ・スリーサークルゲーム	タスクゲーム ・スリーサークルゲーム		・チームの作戦の練習			
30	・ためしのゲーム	タスクゲーム ・スリーサークルゲーム	メインゲーム ・5 vs 5 のゲーム ・6分 × 2回 (作戦タイム 3分)					
40								

大切にすること

- みんなでまえ向きに
- ささえ合い
- ちに向かて

この1時間のめあて

見つけた! 今日のキラキ

R7 岡山県内の小学校

「体育」の系統性



各種の運動の基礎を培う時期

多くの領域の学習を経験する時期

卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わるようにする時期

	小学校				中学校				高等学校			
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生	入学年次	次の年次	それ以降
運 動 領 域 等	体づくりの運動遊び		体づくり運動		体づくり運動		体づくり運動		体づくり運動		体づくり運動	
	器械・器具を使ったの運動遊び		器械運動		器械運動		器械運動		器械運動		器械運動	
	走・跳の運動遊び		走・跳の運動		陸上運動		陸上競技		陸上競技		陸上競技	
	水遊び		水泳運動		水泳運動		水 泳		水 泳		水 泳	
	表現リズム遊び		表現運動		表現運動		ダンス		ダンス		ダンス	
	ゲーム		ゲーム		ボール運動		球 技		球 技		球 技	
							武 道		武 道		武 道	
									体育理論		体育理論	
保 健 領 域 等					保 健				保 健			
年間授業 時数等	102時間	105時間	105時間	105時間	90時間	90時間	105時間	105時間	105時間	体育 3年間で7~8単位 保健 1単位 保健 1単位		

必修

選択

「体育」の系統性



各種の運動の基礎を培う時期

多くの領域の学習を経験する時期

卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わるようにする時期

	小学校		中学校		高等学校							
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生	入学年次	次の年次	それ以降
運動領域等	体づくりの運動遊び		体づくり運動		体づくり運動		体づくり運動		体づくり運動		体づくり運動	
	「遊び」の要素		「運動」の要素		「競技」の要素		「競技」の要素		「競技」の要素		「競技」の要素	
	走・跳の運動遊び		走・跳の運動		陸上運動		陸上競技		陸上競技		陸上競技	
	水泳		水泳運動		水泳運動		水泳		水泳		水泳	
	表現リズム遊び		表現運動		表現運動		ダンス		ダンス		ダンス	
	ゲーム		ゲーム		ボール運動		球技		球技		球技	
							武道		武道		武道	
保健領域等	保健		保健		保健							
年間授業時数等	102時間	111時間	116時間	105時間	90時間	90時間	105時間	105時間	105時間	105時間	105時間	105時間

生涯にわたる豊かなスポーツライフの継続へ

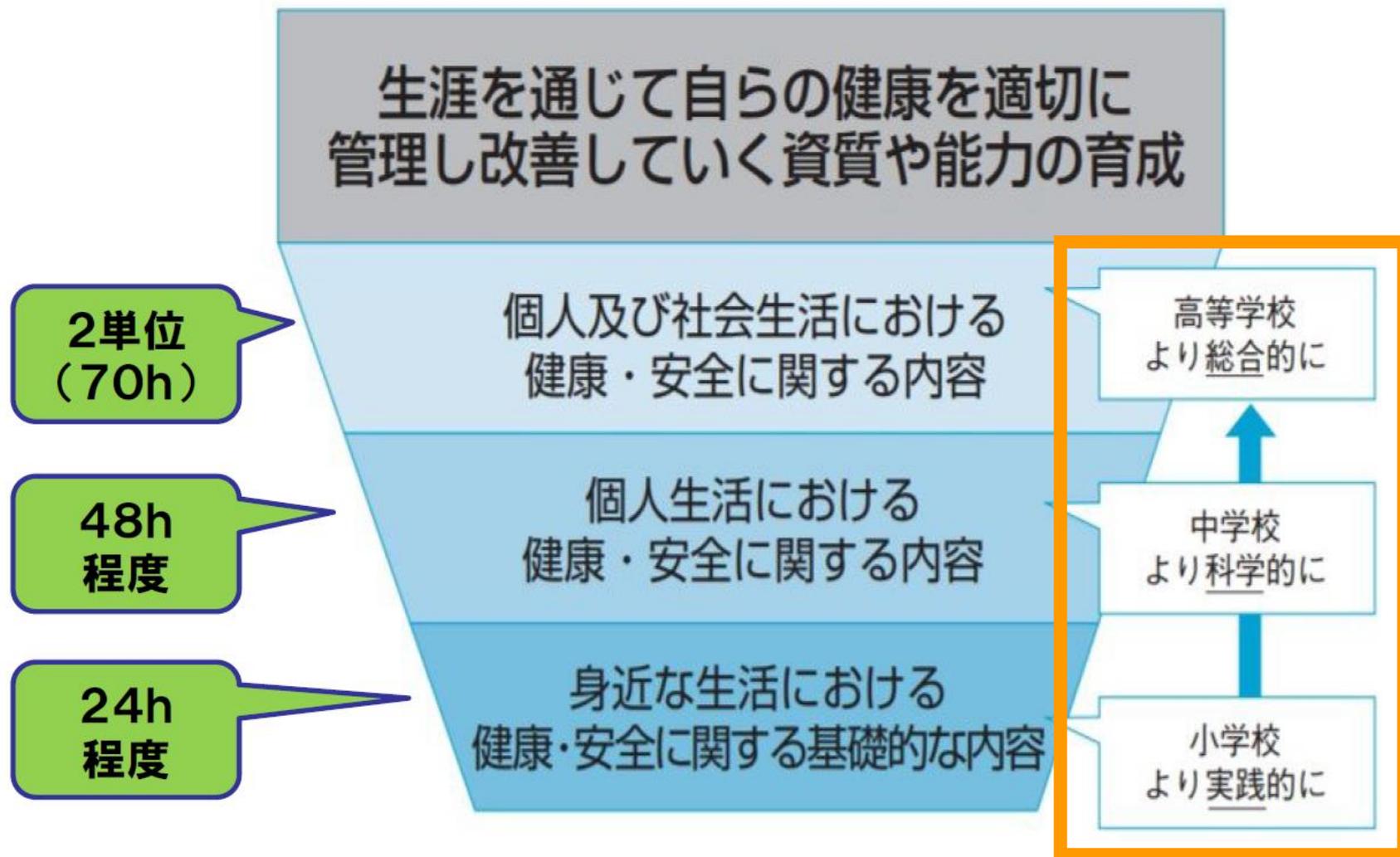
必修

選択

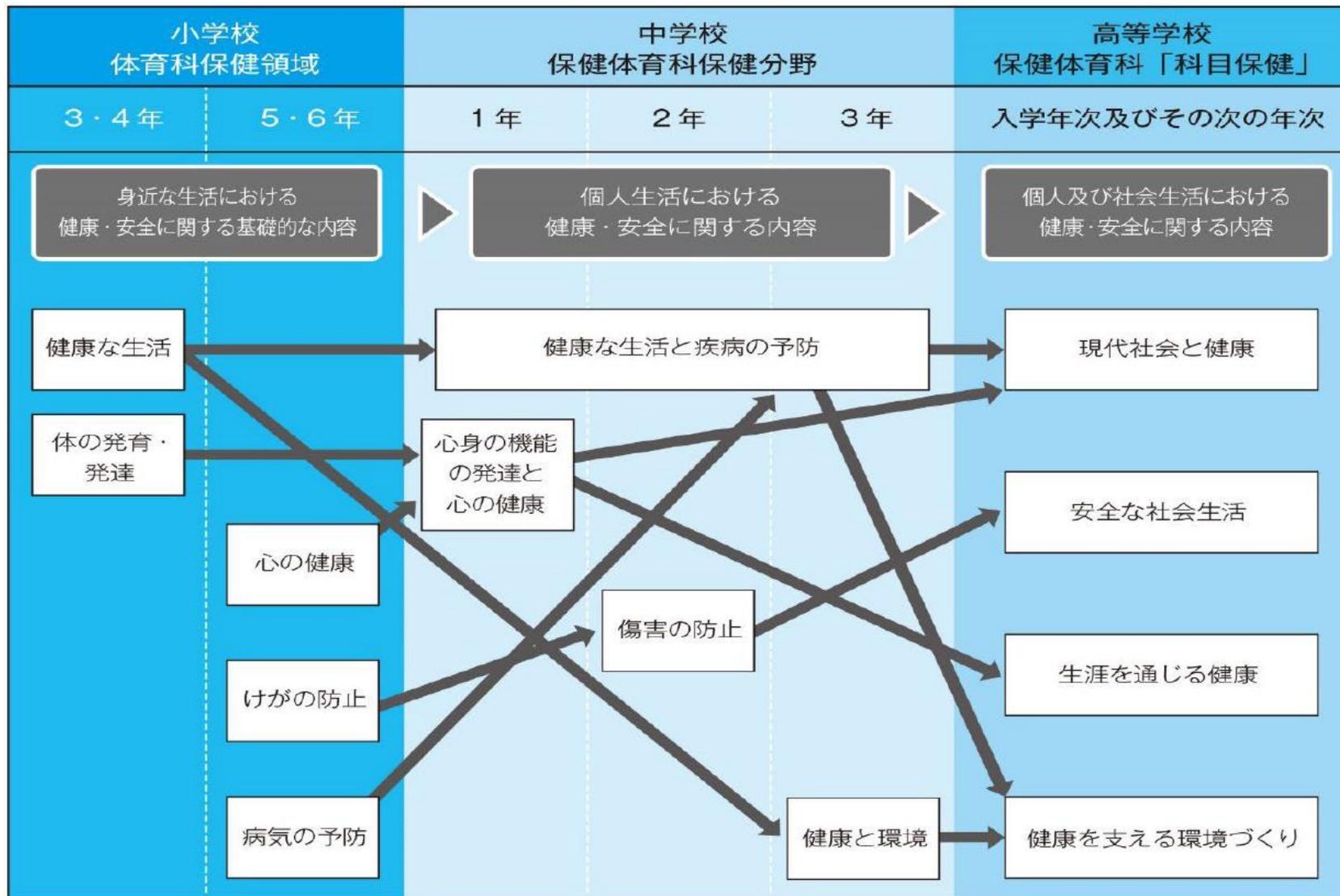
「体育」の系統性

技能 (球技：ゴール型)	小学校第5学年 及び第6学年	中学校第1学年 及び第2学年	中学校第3学年 高等学校入学年次
	ボール操作とボールを持たないときの動き	ボール操作と空間に走り込むなどの動き	安定したボール操作と空間を作り出すなどの動き
思考力、判断力、 表現力等 (器械運動)	小学校第5学年 及び第6学年	中学校第1学年 及び第2学年	中学校第3学年 高等学校入学年次
	観察し合って見つけたことやわかったことを伝える	課題や出来栄を伝える	合理的な動きと比較して成果や改善すべきポイントを伝える
学びに向かう力、 人間性等 (球技：公正)	小学校第5学年 及び第6学年	中学校第1学年 及び第2学年	中学校第3学年 高等学校入学年次
	ルールを守り助け合って運動する	フェアなプレイを守ろうとする	フェアなプレイを大切にしようとする

「保健」の系統性



「保健」の系統性



指導と評価の一体化

単元の目標	知識及び技能	次の運動について、技がよりよくできたり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、(体力の高め方)、(課題解決の方法)、(発表の仕方(など))を理解するとともに、自己に適した技で演技することができるようにする。 ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができるようにする。 イ 鉄棒運動では、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができるようにする。 ウ 平均台運動では、体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができるようにする。 エ 跳び箱運動では、切り直し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うことができるようにする。
	思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等	生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 器械運動に主体的に取り組むとともに、(よい演技を讃えようとする、)互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする(など)や、(健康・安全を確保すること)ができるようにする。

単元の目標

学習の流れ	時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	授業づくりのポイント			
	0	健康観察・準備運動・本時の目標・内容等の確認																		・3つの資質・能力の内容をバランスよく配置する。 ・主体的な学習が行うことができるようにする。 ・様々な違いに応じた課題や挑戦などを尊重できるようにする。 ・多様な関わり方を体験できるようにする。			
10	感覚づくり(ゆりかご・かえる跳び・川渡り・ブリッジなど)																						
20	オリエンテーション	・履修状況の確認 ・既習技の復習(学び直し)			課題解決の方法の確認	・マット運動と跳び箱運動(時間の半分で交代) ・自己に適した技の選択及び練習			・「マット・鉄棒・平均台・跳び箱」の中から、技発表会とは異なる2種類の運動を構成する			・簡易演技発表会(2種目・5つの技)(跳び箱は2つの技) ・演技しやすい場やルールを考える		・グループでのマット運動の演技を考え見せ合う(体力や技能及び性別等の違いを生かす)		・発表会の演技を構成する		・演技発表会(得意な2種目・5つの技)(跳び箱は2つの技) ・クラスで考えた役割に応じて活動					
30	健康・安全の知識の確認	課題解決の計画立案			・良い点や修正点の指摘 ・新たな課題の発見(ICT活用)			危険回避提案		違いを超えて楽しむ調整の仕方を見付ける		・発表会での役割を考える		・発表会での役割を考える		・多様な関わり方							
40	体ほくしの運動及び感覚づくりの動きの確認	マット運動	鉄棒運動	平均台運動	跳び箱運動																		
50	整理運動・本時の振り返り																						

学習の流れ

評価機会	時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	主な評価方法	
	技					(1)	(1)	(1)	(1)												学習カード
思考					(1or2or3)	(1or2or3)	(1or2or3)	(1or2or3)													観察
態度																					学習カード
																					観察(カード)

評価機会

単元の評価規準	知	①器械運動では、技の系、技群、グループの系統性の名称があり、それぞれの技には、技能の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。 ②自己の能力に応じた技で組み合わせたり、異なる技群で構成したりするなどの発表に向けた演技構成の仕方があることについて、言ったり書き出したりしている。 エ 跳び箱運動																		
	技	・ア マット運動 ・回転技群 ①新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて回ることができる。 ②開始姿勢や終末姿勢、組合せの動きや支持の仕方などの条件を変えて回ることができる。 ③学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回ることができる。 ・ほん転技群 ①新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて回転することができる。 ②開始姿勢や終末姿勢、支持の仕方や組合せの動きなどの条件を変えて回転することができる。 ③学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回転することができる。 ・平均立技群 ①新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて静止することができる。 ②姿勢、体の向きなどの条件を変えて静止することができる。 ③学習した基本的な技の条件を発展させて、一連の動きで静止することができる。									・切り直し跳びグループ ①新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて跳び越すことができる。 ②着手位置、姿勢などの条件を変えて跳び越すことができる。 ③学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで跳び越すことができる。 ・回転跳びグループ ①新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて跳び越すことができる。 ②着手位置、姿勢などの条件を変えて跳び越すことができる。 ③学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで跳び越すことができる。									
	思考	①練習や演技の場面で、自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を提案している。 ②グループでの学習で、状況に応じて自己や仲間の役割を提案している。 ③体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに器械運動を楽しむための調整の仕方を見付けている。 ④器械運動の学習成果を語まえ、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。 ⑤器械運動の学習に主体的に取り組もうとしている。																		
	態度	①自己や仲間の課題に応じた練習計画を見直すなど、互いに助け合い高め合おうとしている。 ②一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。																		
	規準	①新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて回ることができる。 ②開始姿勢や終末姿勢、組合せの動きや支持の仕方などの条件を変えて回ることができる。 ③学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回ることができる。 ④新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて回転することができる。 ⑤開始姿勢や終末姿勢、支持の仕方や組合せの動きなどの条件を変えて回転することができる。 ⑥学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回転することができる。 ⑦新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて静止することができる。 ⑧姿勢、体の向きなどの条件を変えて静止することができる。 ⑨学習した基本的な技の条件を発展させて、一連の動きで静止することができる。																		

単元の評価規準

指導と評価の一体化

単元の目標	知識及び技能	<p>次の運動について、技がよりよくできたり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、(体力の高め方、) (課題解決の方法、) 発表の仕方(など)を理解するとともに、自己に適した技で演技することができるようにする。</p> <p>ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を自らに安定して演習すること、条件を変えた技や発展技を自らに構成し演技することができるようにする。</p> <p>イ 鉄棒運動では、支持系や懸垂系の基本的な技を自らに安定して演習すること、条件を変えた技や発展技を自らに構成し演技することができるようにする。</p> <p>ウ 平均台運動では、体操系やバランス系の基本的な技を自らに安定して演習すること、条件を変えた技や発展技を自らに構成し演技することができるようにする。</p> <p>エ 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を自らに安定して演習すること、条件を変えた技や発展技を自らに構成し演技することができるようにする。</p>
	思考力、判断力、表現力等	生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	器械運動に主体的に取り組むとともに、(よい演技を讃えようとするなど、) 互いに助け合い高めあおうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする(など)や、(健康・安全を確保すること)ができるようにする。	

単元の目標

体育の場合

例) 中学校 陸上競技 第1学年及び第2学年

(1) 知識及び技能

陸上競技について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けること。
- ア 短距離走・リレーでは、滑らかな動きで速く走ることやバトンの受渡してタイミングを合わせるなど、長距離走では、ペースを守って走ること、ハードル走では、リズムカルな走りから滑らかにハードルを越すこと。
- イ 走り幅跳びでは、スピードに乗った助走から素早く踏み切って跳ぶこと、走り高跳びでは、リズムカルな助走から力強く踏み切って大きな動作で跳ぶこと。

解説P83

(2) 思考力、判断力、表現力等

陸上競技について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (2) 動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。

解説P89

(3) 学びに向かう力、人間性等

陸上競技について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (3) 陸上競技に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする(など)や、健康・安全に気を配ること。

解説P90

指導と評価の一体化

単元の目標	知識及び技能	次の運動について、技がよりよくできたり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、(体力の高め方、) (課題解決の方法、) 発表の仕方(など)を理解するとともに、自己に適した技で演技することができるようにする。 ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができるようにする。 イ 鉄棒運動では、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができるようにする。 ウ 平均台運動では、体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができるようにする。 エ 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができるようにする。
	思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等	生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、創造的な解決に向けて取り組みを工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 器械運動に主体的に取り組むとともに、(よい演技を顕えようとする、) 互いに助け合い高めあおうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする(など)や、(健康・安全を確保すること)ができるようにする。

保健の場合

単元の目標

例) 高等学校 現代社会と健康

(1) 現代社会と健康

(1) 現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 現代社会と健康について理解を深めること。

(7) 健康の考え方

国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化

..... 略

あること。

(エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康

喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であること。

(オ) 精神疾患の予防と回復

精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であること。また、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であること。

イ 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。

学びに向かう力,人間性等

(例文)

〇〇についての学習に主体的に取り組もうとしている

知識及び技能

思考力,表現力,判断力等

解説P198

指導と評価の一体化

体育の場合

単元の 評価規準

知	①器械運動では、技の系、技群、グループの系統性の名称があり、それぞれの技には、技能の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。 ②自己の能力に応じた技で組み合わせたり、異なる技群で構成したりするなどの発表に向けた演技構成の仕方があることについて、言ったり書き出したりしている。								
単元の評価規準	<table border="1"> <tr> <td>ア マット運動</td> <td>イ 跳び箱運動</td> </tr> <tr> <td>・回転技群 ①新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて回ることができる。 ②開始姿勢や終末姿勢、組合せの動きや支持の仕方などの条件を変えて回ることができる。 ③学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回ることができる。</td> <td>・切り直し跳びグループ ①新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて跳び越すことができる。 ②着手位置、姿勢などの条件を変えて跳び越すことができる。</td> </tr> <tr> <td>・ほん転技群 ①新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて回転することができる。 ②開始姿勢や終末姿勢、支持の仕方や組合せの動きなどの条件を変えて回転することができる。 ③学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回転することができる。</td> <td>③学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで跳び越すことができる。</td> </tr> <tr> <td>・平均立ち技群 ①新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて静止することができる。 ②姿勢、体の向きなどの条件を変えて静止することができる。 ③学習した基本的な技の条件を発展させて、一連の動きで静止することができる。</td> <td>④新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて跳び越すことができる。 ⑤着手位置、姿勢などの条件を変えて跳び越すことができる。 ⑥学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで跳び越すことができる。</td> </tr> </table>	ア マット運動	イ 跳び箱運動	・回転技群 ①新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて回ることができる。 ②開始姿勢や終末姿勢、組合せの動きや支持の仕方などの条件を変えて回ることができる。 ③学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回ることができる。	・切り直し跳びグループ ①新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて跳び越すことができる。 ②着手位置、姿勢などの条件を変えて跳び越すことができる。	・ほん転技群 ①新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて回転することができる。 ②開始姿勢や終末姿勢、支持の仕方や組合せの動きなどの条件を変えて回転することができる。 ③学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回転することができる。	③学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで跳び越すことができる。	・平均立ち技群 ①新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて静止することができる。 ②姿勢、体の向きなどの条件を変えて静止することができる。 ③学習した基本的な技の条件を発展させて、一連の動きで静止することができる。	④新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて跳び越すことができる。 ⑤着手位置、姿勢などの条件を変えて跳び越すことができる。 ⑥学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで跳び越すことができる。
ア マット運動	イ 跳び箱運動								
・回転技群 ①新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて回ることができる。 ②開始姿勢や終末姿勢、組合せの動きや支持の仕方などの条件を変えて回ることができる。 ③学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回ることができる。	・切り直し跳びグループ ①新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて跳び越すことができる。 ②着手位置、姿勢などの条件を変えて跳び越すことができる。								
・ほん転技群 ①新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて回転することができる。 ②開始姿勢や終末姿勢、支持の仕方や組合せの動きなどの条件を変えて回転することができる。 ③学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回転することができる。	③学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで跳び越すことができる。								
・平均立ち技群 ①新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて静止することができる。 ②姿勢、体の向きなどの条件を変えて静止することができる。 ③学習した基本的な技の条件を発展させて、一連の動きで静止することができる。	④新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて跳び越すことができる。 ⑤着手位置、姿勢などの条件を変えて跳び越すことができる。 ⑥学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで跳び越すことができる。								
思	①練習や演技の場面で、自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を提案している。 ②グループでの学習で、状況に応じて自己や仲間の役割を提案している。 ③体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに器械運動を楽しむための調整の仕方を見付けている。 ④器械運動の学習成果を踏まえ、自己に適した「する、みる、変える、知る」などの運動を生産にわたって楽しむための関わり方を見付けている。								
態	①器械運動の学習に主体的に取り組もうとしている。 ②自己や仲間の課題に応じた練習計画を見直すなど、互いに助け合い高めあおうとしている。 ③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。								

例) 中学校 体育 陸上競技 第1学年及び第2学年

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度

- 〈例示〉
- 陸上競技は、自己の記録に挑戦したり、競争したりする楽しさや喜びを味わうことができること。
 - 陸上競技は、古代ギリシアのオリンピック競技やオリンピック・パラリンピック競技大会において主要な競技として発展した成り立ちがあること。
 - 陸上競技の各種目において用いられる技術の名称があり、それぞれの技術で動きのポイントがあること。
 - 陸上競技は、それぞれの種目で主として高まる体力要素が異なること。

- 〈例示〉
- クラウチングスタートから徐々に上体を起こしていき加速すること。
 - 自己に合ったピッチとストライドで速く走ること。
 - リレーでは、次走者がスタートするタイミングやバトンを受け渡すタイミングを合わせること。

- 〈例示〉
- 腕に余分な力を入れないで、リラックスして走ること。
 - 自己に合ったピッチとストライドで、上下動の少ない動きで走ること。
 - ペースを一定にして走ること。

..... 略 解説P86～89.....

- 〈例示〉
- 提示された動きのポイントやつまづきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えること。
 - 提供された練習方法から、自己の課題に応じて、動きの習得に適した練習方法を選ぶこと。
 - 練習や競争する場面で、最善を尽くす、勝敗を受け入れるなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えること。
 - 学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えること。
 - 体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や競争を行う方法を見付け、仲間に伝えること。

解説P90

- 〈例示〉
- 陸上競技の学習に積極的に取り組もうとすること。
 - 勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること。
 - 用具等の準備や後片付け、記録などの分担した役割を果たそうとすること。
 - 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする事。
 - 健康・安全に留意すること。

解説P92

≒授業で見取る(評価する)生徒の姿

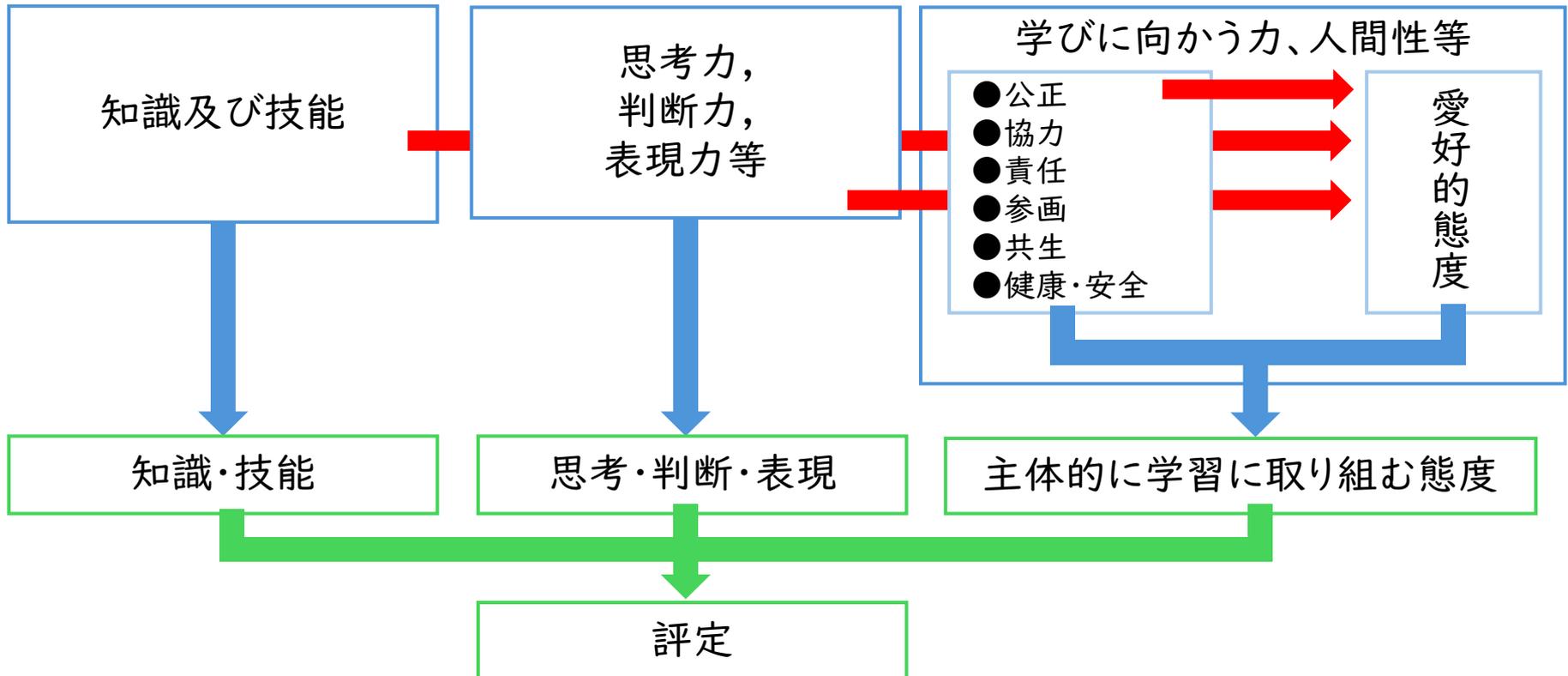
指導と評価の一体化

学びに向かう力、人間性等

〈例示〉

- ・陸上競技の学習に積極的に取り組もうとすること。
- ・勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること。
- ・用具等の準備や後片付け、記録などの分担した役割を果たそうとすること。
- ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする。
- ・健康・安全に留意すること。

＜愛好的態度の醸成＞
積極的に取り組もうとする
自主的に取り組もうとする
主体的に取り組もうとする



指導と評価の一体化

学ぶ意義を十分に見出せず、主体的に学びに向かうことができていない子供の増加（令和6年12月25日中央教育審議会諮問）

例) 中学校

B 器械運動

解説P63

【第1学年及び第2学年】

器械運動は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動及び跳び箱運動で構成され、器械の特性に応じて多くの「技」がある。これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

小学校では、技ができることや技を繰り返したり組み合わせたりすることを学習している。

中学校では、これらの学習を受けて、技がよりよくできることや自己に適した技で演技することが求められる。

したがって、第1学年及び第2学年では、技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技がよりよくできるようにする。その際、技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにすることが大切である。また、器械運動の学習に積極的に取り組み、よい演技を認めることや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めることなどに意欲をもち、健康や安全に気を配ることができるようにすることが大切である。

なお、指導に際しては、知識の理解を基に運動の技能を身に付けたり、運動の技能を身に付けることで一層知識を深めたりするなど、知識と技能を関連させて学習させることや、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の内容をバランスよく学習させるようにすることが大切である。

運動の特性

系統性

指導上の留意点

指導と評価の一体化

運動の特性を踏まえた

運動の楽しさや喜びを味わえる授業の実施が重要

体づくり運動	身体を動かす楽しさや心地よさを味わう
器械運動	技ができる楽しさや喜びを味わう
陸上競技	記録に挑戦したり、相手と競争したりする楽しさや喜びを味わう
水泳	続けて長く泳いだり、早く泳いだり、競い合ったりする楽しさや喜びを味わう
球技	集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わう
武道	勝敗を競い合い互いに高め合う楽しさや喜びを味わう
ダンス	仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを捉えて自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わう

指導と評価の一体化

単 元 の 評 価 規 準	知	①器械運動では、技の系、技群、グループの系統性の名称があり、それぞれの技には、技能の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。 ②自己の能力に応じた技で組み合わせたり、異なる技群で構成したりするなどの発表に向けた演技構成の仕方があることについて、言ったり書き出したりしている。
	技	ア マット運動 ・回転技群 ①新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて回ることができる。 ②開始姿勢や終末姿勢、組合せの動きや支持の仕方などの条件を変えて回ることができる。 ③学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回ることができる。 ・ほん転技群 ①新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて回転させることができる。 ②開始姿勢や終末姿勢、支持の仕方や組合せの動きなどの条件を変えて回ることができる。 ③学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回転させることができる。 ・平均立ち技群 ①新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて静止することができる。 ②姿勢、体の向きなどの条件を変えて静止することができる。 ③学習した基本的な技の条件を発展させて、一連の動きで静止することができる。
	思	①練習や演技の場面で、自己や仲間を危険を回避するための活動の仕方を提案している。 ②グループでの学習で、状況に応じて自己や仲間の役割を提案している。 ③体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに器械運動を楽しむための調整の仕方を見付けている。 ④器械運動の学習成果を踏まえ、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生産にわたって楽しむための関わり方を見付けている。
	態	①器械運動の学習に主体的に取り組もうとしている。 ②自己や仲間の課題に応じた練習計画を見直すなど、互いに助け合い高め合おうとしている。 ③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。
	健康の場合	イ 飛び箱運動 ・切り返し飛びグループ ①新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて飛び越すことができる。 ②着手位置、姿勢などの条件を変えて飛び越すことができる。 ③新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて飛び越すことができる。 ④姿勢、体の向きなどの条件を変えて飛び越すことができる。 ⑤学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで飛び越すことができる。

単元の
評価規準

例) 高等学校 保健 入学年次 現代社会と健康

ア 知識

(7) 健康の考え方

㊦ 国民の健康課題

国民の健康課題について、我が国の死亡率、受療率、平均寿命、健康寿命など各種の指標や疾病構造の変化を通して理解できるようにする。その際、がん、生活習慣病、感染症、精神疾患及び少子高齢社会における健康課題等があることについて触れるようにする。また、健康水準、及び疾病構造の変化には、科学技術の発達、及び生活様式や労働形態を含む社会の状況が関わっていることについて理解できるようにする。

..... 略 解説P200

イ 思考力、判断力、表現力等

<例示>

・現代社会と健康における事象や情報などについて、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見すること。

..... 略 解説P203

理解できるようにする
触れるようにする
適宜触れるようにする
配慮する
視点を重視する
必要に応じて関連付けて扱う程度とすることができるようにする(技能)

語尾に応じて
選択

≒授業で見取る
(評価する)生徒の姿

指導と評価の一体化

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	授業づくりのポイント	
0	健康観察 ・ 準備運動 ・ 本時の目標 ・ 内容等の確認																			
1.0	感覚づくり (ゆりかご・かえる跳び・川渡り・ブリッジなど)																			
2.0	オリエンテーション	・履修状況の確認 ・既習技の復習 (学び直し)			課題解決の方法の確認	・マット運動と鉄棒運動 (時間の半分で交代) ・自己に適した技の選択及び練習		・平均台運動と跳び箱運動 (時間の半分で交代) ・自己に適した技の選択及び練習		・「マット・鉄棒・平均台・跳び箱」の中から最終の演技発表会とは異なる2種類の演技を構成する		・簡易演技発表会 (2種目・5つの技) (跳び箱は2つの技) ・演技しやすい場やルールを考える		・グループでのマット運動の演技を考え見せ合う (体力や技能及び性別等の違いを生かす)		・発表会の演技を構成する		・演技発表会 (得意な2種目・5つの技) (跳び箱は2つの技) ・クラスで考えた役割に応じて活動		<ul style="list-style-type: none"> ・3つの資質・能力の内容をバランスよく配置する。 ・主体的な学習が行うことができるようにする。 ・様々な違いに応じた課題や挑戦などを尊重できるようにする。 ・多様な関わり方を体験できるようにする。
3.0	健康・安全の知識の確認									互いに高め合い助け合い		違いを超えて楽しむ調整の仕方を見付ける		・発表会での役割を考える		・多様な関わり方				
4.0	体ほぐしの運動及び感覚づくりの動きの確認	マット運動 鉄棒運動			課題解決の計画立案	・良い点や修正点の指摘 ・新たな課題の発見 (ICT活用)														
5.0	整理運動 ・ 本時の振り返り																			
評価機会	知				(1)	(1)	(1)												主な評価方法	
技能					①or②or③	①or②or③	①or②or③												学習カード	
思考								①				③							観察	
態度																			学習カード	
																			観察 (カード)	

学習の流れ

評価機会

▶ 評価したいことを指導する

- 評価規準は指導要領に則っているか
- 指導していないことが評価規準になっていないか
- 学習内容と評価規準、評価機会等との整合性がとれているか
- 評価機会の精選が図られているか
- 評価方法は適切か

評価機会についての補足

技能の獲得、向上や態度の涵養については、一定の学習期間が必要になること、主に観察評価によって評価を行うことから、指導後に一定の学習期間及び評価期間を設けるなどのことが考えられる。

「知識」及び「思考・判断・表現」の評価は、主に学習カード等に記述された内容から評価の材料を得る場合が多いことから、指導から期間を置かず評価することが考えられる。さらに、生徒の発言等の観察評価によって得られた評価の材料を加味して評価の妥当性・信頼性等を高める工夫が考えられる。

指導と評価の一体化

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	授業づくりのポイント
0	健康観察・準備運動・本時の目標・内容等の確認																		・3つの資質・能力の内容をバランスよく配置する。 ・主体的な学習が行うことができるようにする。 ・様々な違いに応じた課題や挑戦などを尊重できるようにする。 ・多様な関わり方を体験できるようにする。
1.0	感覚づくり(ゆりかご・かえる跳び・川渡り・ブリッジなど)																		
2.0	オリエンテーション	健康・安全の知識の確認	履修状況の確認 既習技の復習(学び直し)	課題解決の方法の確認	マット運動と鉄棒運動(時間の半分で交代) 自己に適した技の選択及び練習	平均台運動と跳び箱運動(時間の半分で交代) 自己に適した技の選択及び練習	「マット・鉄棒・平均台・跳び箱」の中から最終の演技発表会とは異なる2種目の演技を構成する	互いに高め合い助け合い	危険回避提案	「簡単演技発表会(2種目・5つの技)(跳び箱は2つの技)・演技しやすい場やルールを考える	違いを超えて楽しも調整の仕方を見付ける	グループでのマット運動の演技を考え見せ合う(体力や技能及び性別等の違いを生かす)	発表会の演技を構成する	発表会での役割を考える	演技発表会(得意な2種目・5つの技)(跳び箱は2つの技)	クラスで考えた役割に応じて活動	発表会での役割を考える	多様な関わり方	
3.0	体ほぐしの運動及び感覚づくりの動きの確認	健康・安全の知識の確認	履修状況の確認 既習技の復習(学び直し)	課題解決の方法の確認	マット運動 鉄棒運動 平均台運動 跳び箱運動	平均台運動 跳び箱運動	課題解決の方法の確認	互いに高め合い助け合い	危険回避提案	「簡単演技発表会(2種目・5つの技)(跳び箱は2つの技)・演技しやすい場やルールを考える	違いを超えて楽しも調整の仕方を見付ける	グループでのマット運動の演技を考え見せ合う(体力や技能及び性別等の違いを生かす)	発表会の演技を構成する	発表会での役割を考える	演技発表会(得意な2種目・5つの技)(跳び箱は2つの技)	クラスで考えた役割に応じて活動	発表会での役割を考える	多様な関わり方	
4.0	体ほぐしの運動及び感覚づくりの動きの確認	健康・安全の知識の確認	履修状況の確認 既習技の復習(学び直し)	課題解決の方法の確認	マット運動 鉄棒運動 平均台運動 跳び箱運動	平均台運動 跳び箱運動	課題解決の方法の確認	互いに高め合い助け合い	危険回避提案	「簡単演技発表会(2種目・5つの技)(跳び箱は2つの技)・演技しやすい場やルールを考える	違いを超えて楽しも調整の仕方を見付ける	グループでのマット運動の演技を考え見せ合う(体力や技能及び性別等の違いを生かす)	発表会の演技を構成する	発表会での役割を考える	演技発表会(得意な2種目・5つの技)(跳び箱は2つの技)	クラスで考えた役割に応じて活動	発表会での役割を考える	多様な関わり方	
5.0	整理運動・本時の振り返り																		
時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	主な評価方法
知					(1)		(1)												学習カード
技					1or2or3		1or2or3												観察
思									1										学習カード
感											2								観察(カード)

学習の流れ

評価機会

例) 単元 バドミントン(高等学校)

- ①作戦などの話し合いの場面で、合意形成するための関わり方をみつけ、仲間に伝える
 - ▶ダブルスもしくは、トリプルスを主体に作戦立案・振り返りをメインに据えた単元
- ②体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付ける
 - ▶仲間の関わり方・フィールド(サイズ・構造等)・用具(サイズ・重さ・材質・形等)・システム(個別ルール・特別ルール・時間・リズム等)等の条件変更の工夫をメインに据えた単元
- ③相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとする
 - ▶セルフジャッジや、試合の審判を行う際の課題克服やルール作りをメインに据えた単元

▶同じ種目であっても、重視する視点によって、教師の指示、課題の設定等も変わるなど、工夫や配慮が生まれる。 ≡体育教員の腕の見せ所

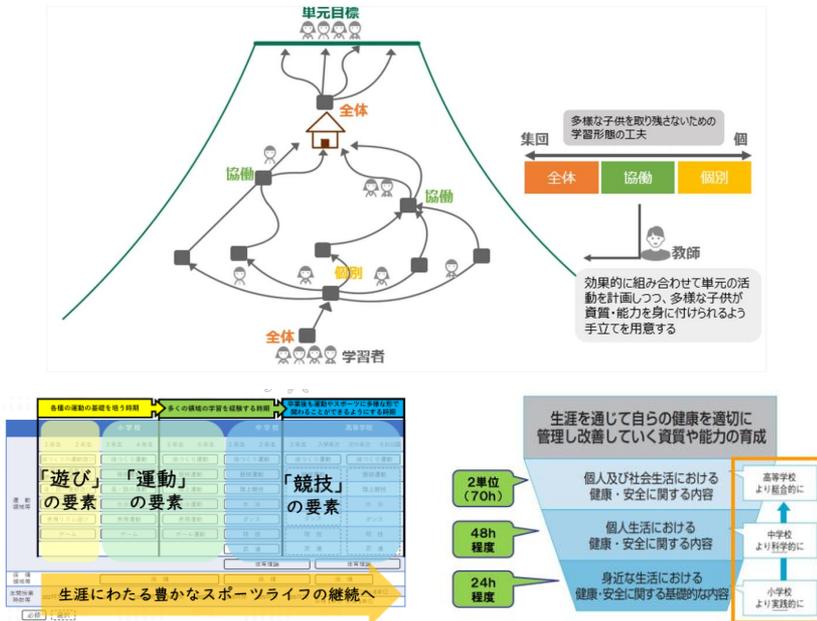
指導と評価の一体化

例) 単元 バドミントン(高等学校)

- ①作戦などの話し合いの場面で、合意形成するための関わり方を見つけ、仲間に伝える
 - ▶ダブルスもしくは、トリプルスを主体に作戦立案・振り返りをメインに据えた単元
- ②体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付ける
 - ▶仲間の関わり方・フィールド(サイズ・構造等)・用具(サイズ・重さ・材質・形等)・システム(個別ルール・特別ルール・時間・リズム等)等の条件変更の工夫をメインに据えた単元
- ③相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとする
 - ▶セルフジャッジや、試合の審判を行う際の課題克服やルール作りをメインに据えた単元

≒授業(単元)で
深めていくメインテーマ

目指すは、「自立した学習者」

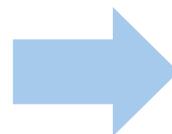


学習の流れ構成のヒント

- 何をして、何ができるようにするのか
等が分かりやすいか
- 生徒にとって安心・安全な環境をつ
けているか
- 生徒にとって選択肢が多い環境をつ
くれているか
- 生徒にとって自分のペースで取り組
める環境をつくれているか
- 結果として、生徒が主体的・対話的で
深い学びを行っているか
- 系統性を踏まえているか

説明は以上になります ご視聴ありがとうございました。

振り返り用 二次元コード
締め切り 2月27日（金）



体育担当者研修講座のその先へ

本研修は、現行の学習指導要領の着実な実施を目的に作成しています。
次期学習指導要領改訂の状況が知りたい方は、以下の動画を御参照ください。

- プラスアルファ 令和7年度 中学校・高等学校 体育担当者研修講座のその先へ
URL:<https://www.pref.okayama.jp/page/1015493.html>



(注) プラスアルファの動画は、体育担当者研修講座ではありません。
自主研修の一環として、ご活用ください。